



New Partnership

臨時号 2021年3月2日 安足教育事務所ふれあい学習課
TEL.0283-23-1471 FAX.0283-23-4274 mail: ansoku-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

令和2（2020）年度安足地区ふれあい学習ネットワーク

テーマ「ネット社会との上手な 付き合い方を考えよう」 ～地域・学校・家庭で、今、子どもにできること～

今年度「安足地区ふれあい学習ネットワーク」が、新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止になりましたので、ふれあい学習推進委員で話し合ったことなどを資料にしてまとめることにしました。

安足管内のふれあい学習推進（※詳細は裏面参照）に向けてネットワークづくりを促進し、子どものための地域づくり活動や仕組みづくりについて考えることを目的として「安足地区ふれあい学習ネットワーク」を開催するにあたり、今年度、9名の方に推進委員を委嘱させていただきました。今年度は、子どもたちのSNSを介してのトラブルが増えていることを考慮し「子どもたちのスマートフォンや携帯電話の利用、及び、SNSの利用の現状と課題」について協議をしました。協議で出た意見の一部を記載します。

- ・最近では、安全性の確保から、スマートフォンや携帯電話を子どもに持たせる家庭が増えている。
- ・小中学生（以下、義務教育学校の児童生徒を含む）のスマートフォンや携帯電話の所持率も高く、高校生になるとほぼ100%の所持率である。
- ・小中学生の多くがスマートフォンや携帯電話をゲームや動画視聴に利用している。
- ・小中学生の約4割がインターネット等のトラブルの経験がある。
- ・子どもたちの発達段階に応じた情報モラル教育を行うことが必要である。
- ・正しい使い方をしていても危険に遭うことがある。
- ・子どもたちも保護者も、SNS利用に伴う危険の認識が甘いのではないか。
- ・これからの時代を考えると「スマートフォンや携帯電話を持たせない」から「持つことを前提でちゃんと教育」という考えの方がよいのではないか。



ふれあい学習推進会議の様子

このような意見を踏まえ、今年度のふれあい学習ネットワークのテーマを「ネット社会との上手な付き合い方を考えよう」に決定しました。残念ながらネットワークは中止になってしまいましたので、代替として、推進委員さんには当日、このテーマをもとに座談会形式で話し合ってくださいました。



令和2年度

ふれあい学習 推進委員の紹介



委員長

佐野市家庭教育支援
チーム 会員
池澤 良子 氏



副委員長

足利市青少年育成会
連絡協議会 会長
古川 克美 氏



委員

佐野市小中義務教育学校
PTA 連絡協議会 理事
柿沼 麻梨子 氏



委員

足利市小中学校
PTA 連合会 相談役
館野 進一 氏



委員

佐野市立界小学校
教諭
鮎瀬 亮 氏



委員

足利市立三重小学校
教諭
熊倉 善博 氏



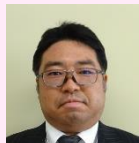
委員

栃木県立佐野松桜
高等学校教諭
堀口 政雄 氏



委員

佐野市教育委員会
生涯学習課
生形 和彦 氏



委員

足利市教育委員会
生涯学習課
小倉 祐司 氏



「コロナ禍の中、子どもたちを取り巻くネット環境は、どのように変化したのでしょうか？」

近藤 (司会者) これまでの推進会議の中でも協議して

きましたが、改めて「コロナ禍」を踏まえ、それぞれの立場で感じていることをお話してください。

熊倉 子どもたちは放課後、友達と外で遊べないため、ネットゲームを利用している子が多いようです。親は子どもの様子を見て、特に言葉遣いを心配している様子が学校評価が上がっていました。また、タブレットを使っていますが、子どもたちの使いこなす速さには驚かされます。ドリルなど、どんな問題でもこなす、その点では有効であると感じます。

鮎瀬 子どもたちの会話には、SNS上での誹謗中傷の話もあり、その都度指導しています。コロナ禍で、道徳的な指導にも、より一層力を入れる必要を感じています。また、アメリカに住んでいる友人の話では、授業の8割はパソコン学習で、二割がプリント学習だと聞き、驚きました。

堀口 高校生も自宅にいる時間が長くなるにつれて、ゲームやスマホの使用頻度、時間が長くなっています。だからこそ、家庭でのルール作りが大切になってきますが、それが難しく、保護者が苦戦しているようです。高校生では、スマホの所持率がほぼ100%ですが、コロナ禍で、スマホ所持の低年齢化にさらに拍車がかかっているのも気になります。



館野 よくも悪くも、子どもがネットを使う時間は増えていると感じています。今の時代は、ネット環境を利用することありき、の世の中になっています。

自分自身も、以前は「スマホは持たせない方がいい」という考えでしたが、今の時代を考慮すると「上手に使わせる」教育が必要であり、地域・家庭・学校が連携して推進する必要があると思います。

古川 ※ギガスクール構想により、小中学生(以下、義務教育学校の児童生徒を含む)が一人一台のパソコン

ンを持つことになりましたが、先日、テレビ番組で、パソコンやスマホの使用が、子どもの視力低下や姿勢の悪さに影響していると聞き、心配になりました。

近藤 以前であれば、学校でパソコンを使うのは、調べ学習くらいでしたが、ギガスクール構想により、今後、大きく変わって来ますね。

生形 佐野市も現在、小中学生のパソコンやタブレット使用が増え、知識も技術も高まっていると感じます。学校では、しっかりとした管理下で使う環境がありますが、帰宅後、知らない人と繋がる機会が増えていることが心配です。堀口先生も言っていました、家庭でのルール作りと、安全な環境でネットを使用できることが重要だと感じます。

小倉 大阪府の中高生を対象としたアンケートでは、昨年より今年の方が、ネット依存が増加しているという結果が出ています。中学生によるスマホサミットでそのことを伝えると「当然のことで納得」「むしろネット依存にならない方が珍しい」という意見も出たそうです。また、小学生の保護者アンケートでは、休校を機に子どもにスマホを購入した、コロナ禍でネットトラブル(ライン外し、迷惑メール、課金)が増加した、という意見が多かったそうです。

池澤 私は、多くの子がユーチューブの影響を受けていることを耳にしています。私自身、子どもの年齢に合わせたフィルタリングがあることを、つい最近知りました。スマホでのゲーム状況の把握、使用時間や時間帯の調整、課金制限ができる「ペアレンタルコントロール」についても、私と同様に知らない保護者もいると思うので、そういうことを発信できる機会を設けることも必要ですよね。

近藤 本当なら、そのようなことについて「ふれあい学習ネットワーク」で知ってもらいたい機会だったのですが、中止になってしまいい残念です。

池澤 保護者に関して気になることがあります。子どもの登校時、見守りのお母さんの中に、スマホを見ながら歩いている人がいます。何か危険なことがあるかも、すぐに察知できないのではないかと心配になります。

館野 そういった大人の姿を見て、子どもは(歩きスマホをしても)いいのかなと思ってしまいますよね。

GIGA スクール 構想の実現へ

1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」

多様な子供たちを一人ひとりに最適に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現へ

文部科学省

「文部科学省 GIGA スクール構想の実現へ」リーフレット

今、地域 家庭 学校、それぞれが、子どもたちのためにどんなことができるでしょうか？

近藤 様々な意見が出ましたが、地域・家庭・学校の役割、やるべきことはどんなことでしょうか？

古川 私は昨年、栃木県青少年育成県民会議の親子学び合い事業「ネット時代の歩き方講習会」で※とちぎネット利用アドバイザーとして活動しています。講座には子どもや保護者、地域の高齢者などが参加し、情報を共有しています。お互いにアドバイスをし合うといった形ができるといいなあと思っています。



足利市内の小学校で開催された講習会の様子

館野 実は私も今年度、ネット利用アドバイザーの養成講座を受講しています。この先、自分の子どもが成長して、学校との関わりがなくなっても、地域の

一員として子どもに接したいと思っています。私も子どもだった頃は、いい意味でも悪い意味でも地域の目が行き届いていたように感じます。悪いことをすれば、地域の人から叱られることもありましたが今はほとんどなくなっています。やはり、地域の大人が、子ども一人一人を見守りながら関わっていくことが大切なことだと思います。



池澤 先日、高校生が小学校で学習支援のボランティアをしているという記事を目にしました。情報学科の生徒の話でした。きつと情報関係のスキルが高いと思うので、ネット利用のよしあしについて、子どもたちに伝えてあげられるといいなと思いました。

近藤 スマホやパソコンの使用で、人と人とのつながりが希薄になってしまった。そこをどう埋めるかが課題になってきているようです。地域の中には、いろいろなスキルを持った方がいますから、子どもたちに少しでも、そのスキルを活用した機会を与えられるといいですね。学校はいかがですか？

鮎瀬 誹謗中傷に関しては、疑似体験などをおして実際に起きていることをとらえさせることが必要だと思います。そのような学校での取組を家庭にも発信し、広げていくと、より効果があがるのではないのでしょうか。

熊倉 学校は集団行動の場であり、多くの人と接する場でもあります。必然的に人間関係のトラブルも発生します。そういった時に、うまく乗り越えていく力（コミュニケーション能力）を身に付けさせることが、我々教師の役目の一つだと思います。

池澤 保護者もコミュニケーションを苦手とする方が増えているようで、子ども同士の学校外のトラブルなど、当事者ではどうすることもできずに、学校に頼っている状況があるそうですね。

熊倉 こういう場合には、当事者同士が、お互いにとりあえずの状況があるかを考えてくれるとありがたいと思います。

鮎瀬 時には、この問題は家庭で解決してほしいと思うこともあります。学校でトラブルが起きた場合、保護者への伝え方にも十分に気を付けています。子どもをよくしたい、という気持ちは、教師（学校）も、保護者（家庭）も、地域も、誰もが思っていることだと思います。

近藤 今の話を聞いてみると、学校の先生方は、いろいろなことを抱え込み、子どもたちのよりよい成長のために、かなり多忙な毎日を送っているように感じます。家庭の役割に関してはいかがでしょうか？

館野 やはり、家庭では、保護者が子どもの手本となるような行動、生活の仕方をきちんとすることが大切だと思います。子どもにもルールやマナーをしっかりと教えることも家庭の役割だと思います。

古川 昔から「子どもは親の背中を見て育つ」という言葉があるように、親の責任は重いと感じます。また、ポケベル、携帯、スマホ等、使用する機器によって、八十年代、九十年代、そして二千年代と、世代による親の様子が変化していると感じています。

池澤 ただ、家庭でのルールや指導の仕方について、困っている保護者も沢山いるようです。学校でのPTA講演会などでこのようなテーマを取り上げることも家庭の支援につながり、そのことが子どもたちの健やかな成長につながるのではないのでしょうか。

注 ※とちぎネット利用アドバイザー 栃木県青少年育成県民会議で開催している、親子で一緒に学ぶ機会「親子学び合い事業」の「ネット時代の歩き方講習会」で講師として活動する方。アドバイザーとして活動するには「とちぎネット利用アドバイザー養成講座」を受講し、認定されることが必要。

これから、地域・家庭・学校の三者がお互いに連携して活動していくことが必要。

近藤 みなさんの話から、やはり地域・家庭・学校が単独ではなく、お互いに連携、協力して取り組むと効果があると感じました。そこで、三者が連携して

どんなことができるか改めて考えたいと思います。

古川 先日、毛野南小で一日英語で過ごそうという取組があり、中学校二年生が手伝いに来ていました。少子化が進んでいます。このような小中の連携をおして、PTAの連携もとれるといいですね。

小倉 今後、地域・家庭・学校が連携して、子どもたちの健やかな成長を見守ることが益々大切になると思います。今回は、ネット関係がテーマですが、三者が当事者意識をもって考える機会が必要だと思います。足利市では毎年「家庭教育懇談会」を開催しています。今年度はコロナ禍により、来年度の開催に延期になりましたが、このような場でネット利用アドバイザーに来ていただき、話し合えることよいのでは、と考えています。また、地域の実態に合わせた問題意識の共有や、情報交換もできると、さらに効果があがると思います。

近藤 今、小倉委員から足利市の取組について話がありました。佐野市ではいかがでしょうか？

生形 佐野市では中学校区において、PTA、育成会や学校関係者、地域の方などが一同に会し、児童・生徒の健全育成のための会議が開催されています。三者が集まる貴重な機会です。新しいことを始めるのはハードルが高いので、既存のそのような場で、ネット利用について話し合えるといいですね。地域や家庭からの意見を聞きながら、学校からも情報を発信し、連携してできることを話し合えれば良いと思います。また、公民館の講座でネット利用アドバイザーに来ていただき、地域の方にもネット利用について学んでもらう機会になるとよいと思います。

館野 足利市は二十二地区あり、十七の公民館があります。小学校と地域が密接に結びついています。先ほど、小倉委員から出ていた家庭教育懇談会は、公民館で行っているものですね。せっかく、三者が集まる素晴らしい機会なのですが、参加者は動員された方や限られた方になっていることが課題です。息子の通う高校でも、PTA講演会などに参加する人は二割程度



★ 柿沼委員は、所用により、座談会は欠席となりました。

しかいけません。お互いに場を共有することが大切なので、自らの意志で参加してもらえそうな仕掛け作りが大事だと思います。

近藤 今、地域の捉え方について話が出ましたが、高校で地域や家庭との連携というと、どのような場がありますか？

堀口 高校ではPTA総会や学年部会、夏休み中の二者面談、修学旅行前の説明会など限られた場になってしまいます。家庭との連携を考えた時、まずは保護者に学校に来てもらえないと連携のスタートになりません。館野さんが言うように、学校に足を運んでもらえるような仕掛け作りが大切だと思います。

池澤 以前、高校の先生が、夏休み前に地域に出向きいろいろと話をしてくれる機会がありました。今もあるのでしょうか？

堀口 PTA集会のことですね。残念ながら、今はなくなっていました。

池澤 地域まで来てくれると、学校まで行くのはちょっと、と感じている保護者の中にも、参加してみようかな、という方が結構いました。

近藤 以前は、そのような取組もあったのですね。

鮎瀬 地域・家庭・学校が、一方的に何かをする、というのではなく、それぞれ双方の矢印で結ばれることが重要だと思います。その中心に「子ども」がいて、三者が子どものために何ができるか、ということを考えることが必要ではないでしょうか。大切なのは、三者が目的を明確にもち、そのために何が

できるかを考えることで、そのことが、おのずと連携に繋がっていくと思います。連携するためにはどうするかを考えるというよりは、それぞれがどうした

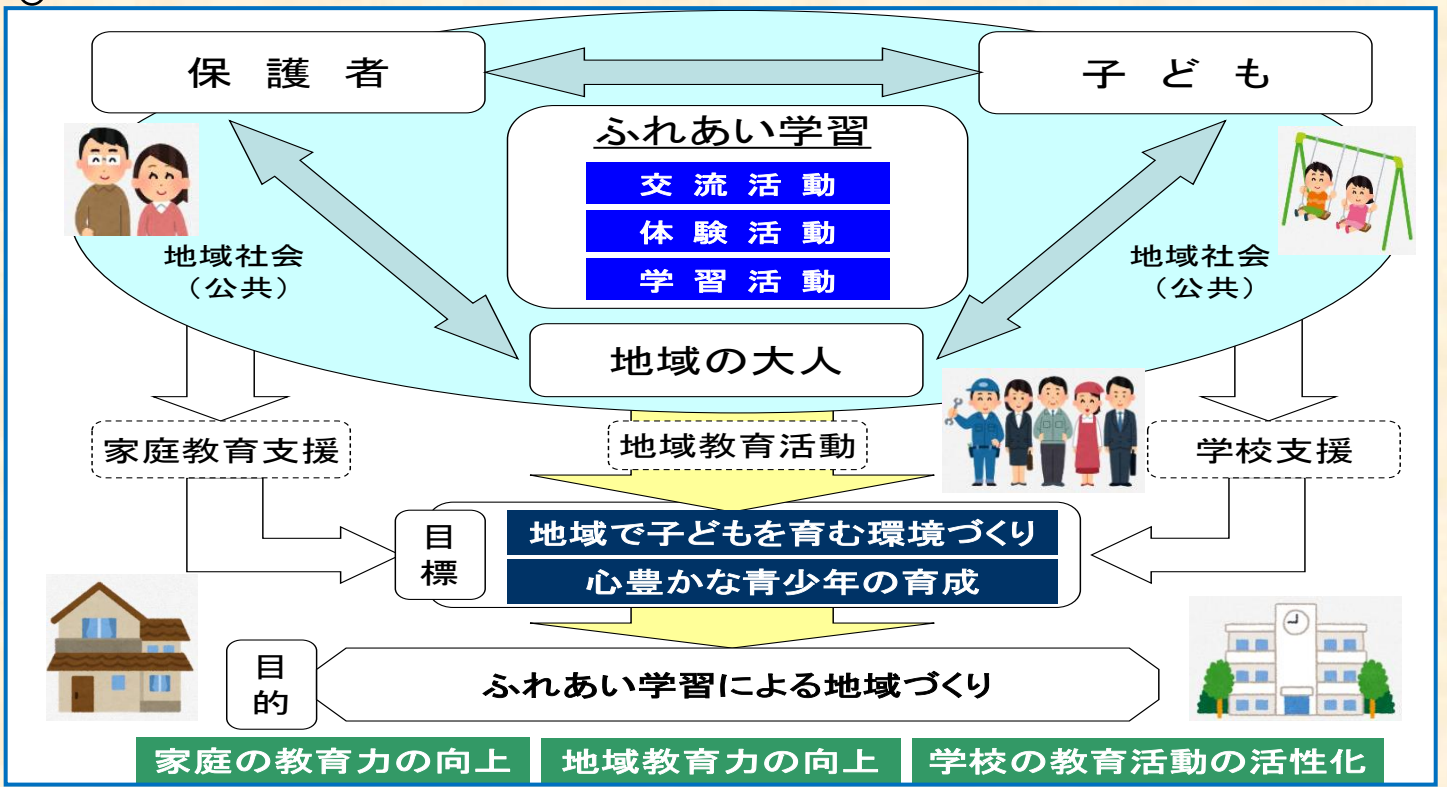
いか、という考えをもつことが自然と連携に繋がると思っています。

近藤 地域・家庭・学校の連携の大切さを改めて考えさせられました。このテーマについては、来年度以降も引き続き取り上げていく予定ですので、今年度出た課題をもとに、次年度、さらにどうしていけばよいか一緒に考えていきましよう！

和やかな雰囲気の下、座談会は終了となりました。

安定地区の ふれあい学習について

ふれあい学習とは、学校・家庭・地域社会が連携・協力し、子どもの「生きる力」をはぐくみながら、家庭と地域の教育力の向上を目指し、子ども同士、大人同士、子どもと大人、そして幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動を行うことを指します。



～ 座談会を終えて ～
今号は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となった、安定地区ふれあい学習ネットワークのテーマ「ネット社会との上手な付き合い方を考えよう」のもと、ふれあい学習推進委員による座談会の内容を中心に編集しました。子どもたちの健やかな成長のためにできることとして、地域としては、各々のスキルを活用した子どもへの関わりや、地域の大人としてネット利用について学ぶ機会を持てるとよいこと、また、学校としては、コミュニケーション能力を身に付けさせることや、道徳的な指導の強化をすること、家庭としては、子どもと一緒にルール作りをしたり、子どもを危険から守るためにフィルタリングをかけたりするとともに、保護者自身が子どもの見本となるような行動をとること、などを確認できました。さらに、地域・家庭・学校が連携してできることの1つとして、まずは、三者がこのテーマで話し合えるような場を設け、問題意識の共有や情報交換を行うことがあげられました。子どもたちの健やかな成長を願う気持ちは、地域も家庭も学校も一緒であることも再確認できました。
御多用の中、御協力いただいた推進委員の皆様へ、心から感謝申し上げます。(安定教育事務所 萩野)